

## ■ 解答・解説

問1 答え：「(夫が) 三年の間帰って来なかったのだ。」

〔解説〕「来(こ)」は動詞「来(く)」の未然形。「ざり」は打消の助動詞「ず」の連用形で「来ない」の意。「けれ」は過去の助動詞「けり」の已然形、「ば」は已然形+「ば」で順接の確定条件(～ので・～ところ)。あわせて「帰って来なかったのだ」と訳します。男が宮仕えのため家を離れ、三年も音沙汰がなかったという、悲劇の発端となる状況です。

問2 答え：

- 読み＝「こ」、活用形＝未然形。
- 「けれ」＝過去の助動詞「けり」の已然形。
- 順接の確定条件。

〔解説〕「来(く)」はカ行変格活用(カ変)の動詞で、未然形が「こ」です。打消「ず」が下につくので未然形になります。「已然形+ば」は「～ので・～と・～ところ」と訳す順接の確定条件。「未然形+ば」(もし～ならば、の仮定条件)と区別できるようにしておきましょう。

問3 答え：

- 助動詞「たり」。
- 意味＝存続(～ている・～ていた)。

〔解説〕「待ちわびたり」「ちぎりたり」は、「待ちわびていた」「約束していた」と、その状態が続いていることを表すので存続でとります。「たり」には完了(～た・～てしまった)の意味もあり、文脈で判断します。

問4 答え：三年帰らない夫を待ちわびていた女に対し、たいそう熱心に言い寄ってきた(求婚してきた)新しい男のこと。

〔解説〕女はこの男に「今宵あはむ(今夜会いましょう)」と約束していました。そこへ、よりによって元の夫が帰って来た、というすれ違いが起こります。

問5 答え：意味＝「心がこもっている・熱心だ・親切だ」。品詞＝形容動詞(ナリ活用)。

〔解説〕「ねむごろなり」は、相手に対して心をこめて丁寧に接するようすを表します。ここでは女に熱心に求愛する新しい男の態度を指しています。

問6 答え：相手＝(熱心に言い寄ってきた)新しい男。「む」＝意志(～よう・～しよう)。

〔解説〕「今宵あはむ」は「今夜会おう(会いましょう)」という女の意志を表します。「む」には推量(～だろう)・意志(～よう)・勧誘・婉曲などの意味があり、ここは女自身の気持ちなので意志です。

問7 答え：

- 尊敬語。
- 戻ってきた男(夫)から、戸の内側にいる女への敬意。

〔解説〕「たまへ」は補助動詞「たまふ」の命令形で、動作（戸をあける）をする人＝女を敬う尊敬語です。「あけたまへ」は「お開けください」。敬意の向きは「話し手（男）→動作主（女）」です。

---

問8 答え：

- 係り結び（係り結びの法則）。
- 「すれ」＝サ行変格活用（サ変）の動詞「す」の已然形。

〔解説〕係助詞「こそ」を受けると、文末が已然形で結ばれます。ふつうの終止形なら「す」となるところが、「こそ」があるために已然形「すれ」になっています。

---

問9 答え（現代語訳）：「(新しい年が改まって、その) 三年もの間 (あなたを) 待ちわびて、ちょうど今夜こそ、新しい人と枕を交わすのです。」

〔解説〕「あらたまの」は「年」にかかる枕詞。長く待ったけれど、まさに今夜あなたではない人と結ばれるのだ、と戸を開けないことを伝える歌です。

---

問10 答え：「新枕すれ」は「初めて共寝をする（新しく夫婦の枕を交わす）」という意味。これにより、女はこの夜、新しい男と結ばれて夫婦になろうとしていたことがわかる。

〔解説〕「新枕」は、男女が初めて共に寝ること。女は戸を開けない理由を、この歌で告げています。

---

問11 答え（現代語訳）：「(梓弓・真弓・槻弓と、長い) 年月を経て、私があなただけを (大切に思って) 愛したように、(新しい夫のことも) 仲よく愛しなさい。」 願ったこと＝自分は今もう身を引くので、これからは新しい夫を大切に仲よく暮らさなさい、という相手の幸せ。

〔解説〕去って行こうとする男が、女に向かって詠んだ歌です。恨み言ではなく、「私がそうしたように、これからは新しい夫を大切にしてください」と相手をいたわる内容になっている点が問われやすいところです。

---

問12 答え：

- 抜き出す語＝「年」。
- 序詞（じょことば）。
- 枕詞（まくらことば）。

〔解説〕「あづさ弓・ま弓・つき弓」は、梓（あづさ）・檀（まゆみ）・槻（つき）という、弓の材料になる木の名を重ねたもの。弓は「引く」ものであり、また長く「年を経て」使うことから、「年」を導く前置きの言葉（序詞）として置かれています。「あづさ弓」一語だけで「引く」などを導く場合は枕詞ですが、ここは三つの弓を連ねて「年」を引き出しているため、全体としては序詞と捉えるのが標準的です。

---

問13 答え：「うるはし」＝「きちんとしている・むつまじい・誠実だ」。「せよ」＝サ行変格活用（サ変）の動詞「す」の命令形。

〔解説〕「うるはしみす」で「仲むつまじくする・大切に思う」という意味になります。「～せよ」は「～しなさい」という命令の言い方です。

---

問14 答え：「(あづさ弓ま弓つき弓) 年を経て」の「弓」に関わる「(弓を) 引く」という言葉。本文では男の歌「あづさ弓ま弓つき弓年を経て」の「弓」を受けています。

〔解説〕女は、男の歌の「弓」のイメージ（引く）を受けて、「引こうが引くまいが」と詠み返していま

す。弓は引くものなので、それを「あなたが私の心を引こうとしようがしまいが」という意味に重ねた、機知のある返しになっています。

**問15 答え**（現代語訳）：「（あなたが私の心を）引こうが引くまいが、昔から私の心はあなたに寄り（傾いていたのになあ。」

〔解説〕前の男の歌の「（弓を）引く」を受け、自分の一途な心を詠んだ返歌です。あなたがどうしようと、私の心はずっとあなたに向いていたのに、という嘆きがこもります。

**問16 答え**：

- 「より」＝動詞「寄る」の連用形。
- 「に」＝完了の助動詞「ぬ」の連用形。
- 「し」＝過去の助動詞「き」の連体形。
- 「ものを」＝逆接・詠嘆を表し、「～のになあ」と訳す。

〔解説〕「より＋に＋し＋ものを」と分けて考えます。「ものを」は文末で逆接や詠嘆（残念だ・～のになあ）をこめる言い方。歌の終わりに置かれて、満たされない思いの余韻を残しています。

**問17 答え**：現代語訳＝「男は（そのまま）帰ってしまった。」 「に」＝完了の助動詞「ぬ」の連用形。

〔解説〕「かへりにけり」は「帰ってしまった」。「に」は完了「ぬ」の連用形、「けり」は過去の助動詞です。女の必死の返歌にもかかわらず、男が去ってしまう場面です。

**問18 答え**：

- 「え…で（ず）」は不可能（～できない）を表す。
- 現代語訳＝「追いつくことができないで」。

〔解説〕「え」は下に打消の語を伴って「～できない」という不可能の意味を作ります。「で」は打消の接続助詞で「～ないで」。女は去る男を追いかけたものの、追いつけなかったのです。

**問19 答え**：「指（ゆび）」のこと。

〔解説〕「および」は古語で「指」を指します。「およびの血」は「指の血」。女は自分の指の血で、岩に最後の歌を書きつけました。

**問20 答え**：女は去る男を追いかけたが追いつけず、清水のある所に倒れ伏し、そばの岩に自分の指の血で「相思はで（＝互いに思い合うことのないまま）離れてしまったあなたを引きとめることもできず、私の身は今、消えてしまうようだ」という歌を書きつけて、その場で死んでしまった。

〔解説〕「相思はで」は「互いに思い合うことなく」の意で、自分だけが相手を思っていたという嘆きがこもります。「いたづらになる」は「むなしくなる＝死ぬ」を遠回しにいう表現で、結びの「そこにいたづらになりけり」は「その場所で死んでしまった」という意味です。すれ違いの果てに命を落とす、この段の悲劇的な結末を示します。

**問21 答え**（現代語訳）：「互いに思い合うこともなく（私のもとを）離れて行ってしまったあの人を引きとめることもできず、私の身は今、（はかなく）消えてしまうようだ。」

〔解説〕「とどめかね」は「引きとめることができず」（「かぬ」＝～できない）。「消え果てぬめる」の「ぬ」

は完了、「めり」は「～のようだ・～とみえる」という推量の助動詞で、自分の死を静かに見つめるような余韻を残します。

---

**問22 答え：**

---

- 歌物語。
- 在原業平（ありわらのなりひら）。
- 六歌仙（ろっかせん）。

〔解説〕『伊勢物語』は、和歌を中心に短い章段を連ねて一人の男の一生を描く「歌物語」の代表作で、平安時代前期の成立。作者は未詳です。主人公「昔男」は、六歌仙の一人である歌人・在原業平がモデルとされ、業平の和歌が多く採られていることから「在五（ざいご）が物語」とも呼ばれます。

---